

「六郷のカマクラ」などを
見学しました

美郷めぐり「冬」

新しいふるさと「美郷」を再認識するとともに地域の融和を図ろうとする美郷めぐり「冬」が2月15日に行われ、町民23人が参加しました。

「春」「夏」「秋」に続いて4回目の実施となったこの日は、千畑地区にある本堂城跡に飛来している白鳥のほか、国の重要無形民俗文化財に指定されている六郷地区の小正月行事「六郷のカマクラ」と道の駅「雁の里せんなん」を見学しました。

このうち、「六郷のカマクラ」では、各町内の雪宮前で振る舞われた甘酒をごちそうになりながら天筆に彩られた本道町通りなどを散策したほか、蔵開きが行われている酒蔵などを見学しました。

なお、今年度4回行われた「美郷めぐり」には、延べ108人の方から参加していただきました。18年度も2回の実施を予定しておりますので、たくさんの方のご参加をお待ちしています。



「広報紙部門」と「広報写真部門」で
ともに入賞しました

平成17年秋田県広報コンクール



▲「広報写真部門」で入賞した「広報美郷7月号」の表紙



「広報紙部門」で入賞した「広報美郷11月号」▼▼

平成17年秋田県広報コンクールの審査結果がこのたび発表され、本町は「広報紙部門」と「広報写真部門」でともに入賞しました。

「広報紙部門」での入賞は、平成16年に引き続き2年連続。また、今回の入賞作品は全国コンクールに推薦されることになりました。

「広報紙部門」で入賞したのは、美郷町誕生1年にあたり、これからのまちづくりについて考える特集記事を掲載した「広報美郷11月号」。

また、「広報写真部門」で入賞したのは、「広報美郷7月号」の表紙に掲載した、田植え前の田んぼでどろ遊びを楽しむ子どもたちの写真です。

今回の入賞を励みに、今後も町民の皆さんに親しまれる広報紙づくりを目指して、頑張っていきたいと思えます。

町政に関するあなたのご意見・ご質問

お答えします

このコーナーでは、ご意見箱「みさとミミーちゃん」やご意見はがき、町へのメールなどを通してお寄せいただいたご意見・ご質問のうち、町政に関することで町民の皆さんに広くお知らせすべき内容について、町の考えを掲載します。

Q 六郷にある「いちょうの家」の入所資格について教えてください。

A 「いちょうの家」は、特別養護老人ホーム「ロートピア緑泉」に併設して設置された定員7名の施設で、平成14年4月から事業を行っています。事業の実施にあたっては、美郷町が事業の実施主体となり、六郷仙南福祉会に運営を委託しています。

入所資格に関するお問い合わせですが、利用対象者は、国及び町が定める要綱により、65歳以上のひとり暮らしか、夫婦のみの世帯に属する方で高齢等のため独立して生活することに不安のある方が原則で、寝たきりの状態の方とか伝染病や精神的疾患を有し特別な介護を必要とする方は対象になりません。また、町では、冬季間等一時的に生活不安がある場合の入居施設として位置づけていますので、入居期間は6カ月以内となっています。ただし、入所者の状態により期間を延長することができることとなっております。こうした基準で運営しておりますが、ご不明の点は福祉保健課にお問い合わせください。

なお、町内には、類似の施設として「ロートピア仙南」に併設されたケアハウス「仙南の杜」(定員15名)もあります。



「いちょうの家」
「仙南の杜」

役場(千畑庁舎)福祉保健課 高齢・障害福祉班
特別養護老人ホーム「ロートピア仙南」

☎0187-84-4907

☎0187-87-8010

今後とも、町政に関するご意見・ご質問をお気軽にお寄せください。



MISATOMATO

第13回リフォームデザインコンテスト2005全国大会で 全国最優秀賞を受賞

株式会社シーモワオカダデザイン 代表取締役 **岡田 登** さん

真っ赤に色づいたトマトのように今が旬の人

みさとまんと

vol.7

日本増改築産業協会(ジェルコ)主催の第13回リフォームデザインコンテスト2005全国大会で、六郷小安門に事務所を置く株式会社シーモワオカダデザインの岡田登さんの出品作が、過去最多応募数の443点(97社)の中から、東北では初となる全国最優秀賞を受賞しました。



▲全国最優秀賞を受賞した出品作



自 然素材でリフォーム」と題された出品作は「柱を主体とした構成と白壁という真壁構造が、日本の伝統をうまく表現している。和風建築のいいところを見直す点で、刺激をあたえてくれている。細部にもよく配慮されていて完成度が高い」と高い評価を得た。

施主から三世代住宅としての機能も考えてほしいという要望があり、家族のプライベートをまもりながら、みんなが寄り添って生活できる間取りを考えた。しつこい白壁と古材色の黒っぽい柱のコントラストと秋田杉の天井、松材の床で安心感のある部屋に仕上がっている。

自 分は、もつたない人間だと話す岡田さん。古い家が壊されるのもつたないという思いから、30年以上前から自然素材を重視したデザインで古民家をリフォームする仕事を手掛けてきた。平成8年には日本住宅リフォームセンター主催の第13回住まいのリフォームコンクールで住宅金融公庫総裁賞を受賞している。

岡

田さんは次のように話している。

「戦後の住宅不足の時は、まず家を建てるということが優先されてきたが、家が建つとその質が問われるようになった。家の質というのは、その家に住むひとの快適さだとか健康ということ。高断熱高気密で寒くなければ健康だとされてきた家づくりが、新築病などの家による健康障害の原因だと問題になってきた。その反省から日本のもともとの住まいの素材が見直されるようになった。それが土壁



▲平成8年に住宅金融公庫総裁賞を受賞した出品作

舞

台美術の仕事をやってみたかった」と話してくれた岡田さん。住むひとの生活を引き立てる家づくりにまい進する姿は、まさに人生の舞台美術家だ。

「せっかく秋田に居るのだから秋田らしい、都会の人たちがうらやまがるような家をつくりたい」と話す岡田さんの自然素材へのさらなるこだわりに期待したい。

※真壁(しんかべ)とは、日本の伝統的な壁の造りのことで、柱や梁などの構造部材が室内にむき出しになっている壁のこと。構造部の木材が空気に触れるため、湿度が調整しやすく、家の耐久性がよいとされる。